



ーリード・エーが向かうところー

理事長 西澤 公一

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、社会福祉法人の制度の変更があった年であり、私たちも1年間その対応に追われました。10月には東京都による施設(葦の会作業所)の現地検査(定期的に行われる、いわゆる‘監査’)と足立区による法人の現地検査が同日にあり、8人もの検査員が来られ3階のいきいきルームを使って一日がかりの検査が行われました。私たちの書類等の整備が制度変更を追いついておらず、いろいろ不備を指摘されましたが、何とか年末までに訂正、改善を行って新年を迎えることができました。今後もメンバーの福祉向上をめざし、法人の運営をより明瞭に行っていきます。

さて、今年は長年念願であった畑用の土地の取得にめどが付きそうです。実現すれば葦の会作業所の目玉事業である花作りを、安定した基盤の上で行うことができることになるでしょう。花作りを始めてから24年、2度に渡って引っ越しをせざるを得なかった経験から自前の畑を持ちたいとずっと願っていました。2012年度に法人の長期目標として設定して以来ようやく夢が実現しそうです。まだまだ乗り越えなければならないことはありますが、これで引っ越しを前提としないしっかりとしたハウスや休憩所の中で花作りができるでしょう。

しかし、一つの夢が叶うからといってそこでリード・エーは立ち止まることはしません。私たちは既に次の目標を考え始めています。それは「高齢化への対応」。一年間の理事会の審議の中で作業所やホームでとりあげられた問題を検討し、親の高齢化と本人の高齢化の問題が表面化してきているのが確認されました。リード・エーでは、親が歳をとることによって自宅での生活が難しくなってきたメンバーたちに対し、安心して生活できる場をグループホームにおいて提供しています。親の負担を減らし、親亡き後に備えて西新井、西伊興の2ホームで12人の生活を支援してきましたが、あと何年か後には次の世代のメンバーのニーズが増えてくるのは目に見えています。それにどう応えていくのか？

また、本人の高齢化の影響も出始めています。集中力が継続できないなど、現在の仕事中心の作業所ではなかなか力が発揮できなくなってきたメンバーが何人かいます。では、いきいきと過ごしてもらうには受け入れ体制をどうするか？

更に高齢化が進めば、作業所に通って来ること自体が難しくなることが考えられます。それにどう対応するか。その時点でホームでの今のような生活を維持できるのか、難しいとすれば今のホームをどう変えていかなければならないのか。ハード面ではバリアフリー、車いす対応、ソフト面では日中活動をどのように取り入れるかなど。そしてそのような体制変更をするのであれば障がい者福祉と高齢者福祉制度のどちらを利用したらよいのか？

私たちには未知の分野であり、検討しなければならないことが山のようにありますが、必ず到来するその時に備えるため、リード・エーは一丸となって今年スタートを切ります。ご支援ご協力よろしくお願い致します。